

演習問題

1 下記の症例について、届出対象か届出対象外か適切なものに○を記入してください。

- ① 自施設で高血圧の治療中に他施設で食道がんと診断され、食道がんの治療はすべて他施設で行われている症例。

ア. 届出対象

イ. 届出対象外

- ② 他施設で診断されたがんについて、自施設ではそのがんの術後リハビリのみ行っている症例。

ア. 届出対象

イ. 届出対象外

- ③ 自施設ではがん以外で診療をしている。がんについては他施設から処方を受けており、他施設処方の抗がん剤について自施設で服薬管理のみ行っている症例。

ア. 届出対象

イ. 届出対象外

- ④ 自施設で肺がんの疑い。確定診断には至っていない症例。

ア. 届出対象

イ. 届出対象外

- ⑤ 救急搬送されそのまま死亡。死亡診断書にがんと記載したが、受診歴は全くない症例。

ア. 届出対象

イ. 届出対象外

2 届出票を作成するときに、下記の場合が適切であれば○、間違っていれば×を記入してください。

届出票は別紙 1 の届出票見本を参考にしてください。

① 転移性肝臓がん患者

届出票の項目⑨原発部位について「肝臓」を選択した。

② 原発部位不明の患者

届出票の項目⑧側性について「9.不明」を選択した。

③ 乳がん患者

左右両方のがんが見つかり診断されたが、部位や病理診断、診断日、治療法などすべて左右同一なので、届出票の項目⑧側性について「3.両側」を選択した。

④ 肺がん患者

自施設で手術等の観血的治療を何も行っていないため、届出票の項目⑰進展度・術後病理学的の項目について「777.該当せず」を選択した。

⑤ 遡り調査で対象となった患者

他施設で組織診を行い胃がん診断されているが、診断日(検査日)の情報がなく、わからないので、届出票の項目⑭診断日は未記入(空欄)で提出した。

3 次の症例について「診断施設」、「治療施設」、「診断根拠」、「発見経緯」に該当するコードを記入してください。コードは別紙2の全国がん登録届出マニュアル（抜粋）から選択してください。

- ① A クリニックのがん検診で細胞診を行い子宮頸がん診断。自施設を受診し、超音波と組織診を行い子宮頸部扁平上皮癌と診断したが、その後は来院していない症例。

診断施設

治療施設

診断根拠

発見経緯

- ② 下血を主訴にB病院を受診し、腹部CT検査と大腸内視鏡にて生検の結果、結腸管状腺癌と診断され手術。その後は当初の治療計画により自施設にて経過観察を行っている症例。

診断施設

治療施設

診断根拠

発見経緯

4 次の症例について「進展度・治療前」、「進展度・術後病理学的」に該当するコードを記入してください。コードは別紙2の全国がん登録届出マニュアル（抜粋）から選択してください。

- ① 市町村の検診で胃がん疑い。精密検査のため自施設に紹介され、腹部CTと内視鏡下生検を行い、胃癌・肝転移と診断。外科的治療は適応外のため実施しなかった症例。

進展度・治療前

進展度・術後病理学的

- ② 自施設にて急性骨髄性白血病の診断。化学療法を行った症例。

進展度・治療前

進展度・術後病理学的

総合問題

症例

83歳 女性

- 2019.8.9 Aクリニックにて以前から行っている糖尿病の治療中、急激に血糖値が上昇し、腫瘍マーカー検査を行ったところ CA125、CA19-9 高値。
- 2019.8.16 造影 CT 検査を行う。
- 2019.8.23 画像により膵臓癌と診断。肝転移も見つかる。
Aクリニックは自施設でがんの治療はできないため、B病院を紹介する。
- 2019.9.13 B病院を初めて受診するが、がんについては年齢的なこともあり、本人も家族も積極的な治療を望まず経過観察の方針となる。
- 2019.9.24 糖尿病の治療を行いながら、がんについては経過観察を開始する。

以上の情報より、B病院を自施設として届出票を作成してください。